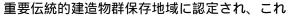
第 56 回建築士会全国大会 しまね大会紹介 2)島根の近世建築 2津和野

津和野は島根県の西部にある山の中の町で、しばしば山口県と間違えられます。近世の藩主は亀井氏ですが、亀井氏は尼子とも関係が深く、もとは鹿野町にいたものが津和野に移封されました。中世には海外とも貿易をしていた藩です。

町は元祖小京都的な乗りで観光地化し、近世の 武家屋敷遺構と町屋遺構が連続したまちなみの

中に残っています。しかし、一方でまちなみ の裏側では、かっての家老屋敷の敷地を道路 や線路が分断するというような、文化財を破 壊するような行為も行われていました。先般、



を契機として、破壊された文化財景観の復活や既存施設の整備をさらに進めていこうとしているところです。

観光の見せ場の一つは旧藩校養老館です。 嘉永 6 年 (1853) に元あった場所から改め て建設された藩校です。現在残っているのは一

部ですが、近世の遺構がそのままの貴重な ものです。表の水路には鯉が丸々と太り、 観光客にすり寄っています。多胡家は筆頭 家老を務めた家ですが、3 軒間口の立派な

薬医門です。両脇に物見と呼ばれる番所を 町 備えています。主屋については一部古い ものが残っていますが未整備です。この 辺りは殿町になります。他に大岡家老家 の門もありますが、敷地内は明治時代に 郡役場として建てられ今も町役場として 使っている建物があります。武家地の手前に町屋が並んでしますが、ここにも近世から

の老舗や建物がいくつか並び、風情を醸し出し

ています。



藩校 養老館



22220

藩校前の水路

殿町のまちなみ





多胡家老家門

大岡家老家門





町屋のまちなみ

財間家





果心庵

海老屋